

# 武家のシンボル — 武具・刀剣 —

平成30年7月3日(火)～9月24日(月・祝)

A:7月3日(火)～7月31日(火) B:8月1日(水)～8月28日(火) C:8月29日(水)～9月24日(月・祝)

大名はいうまでもなく武士であり、その集団の長であったため、泰平の世の江戸時代にあっても常に軍備を怠ってはならなかった。

大名家の武器武具は単なる戦闘実用品ではなく、同時に「武士の心根」を表わすように美しく気品に満ちていることが必要だった。中でも刀剣は「武士の魂」といわれる通り、武士の精神の象徴として大切にされ、最も高い格式を持ち、公式の贈答品の筆頭ともされた。

大名の甲冑は、一軍の大將の着用品である。武威と気品に満ち、贅を尽し技術の粋を集めてはた目にも美しく見えるように作られた。

凡例：◎は重要文化財、○は重要美術品

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者など	時代	世紀	期間
1	銀箔置白糸威具足	松平通温(尾張家3代綱誠19男)着用	江戸	18	
2	梨子地糸巻太刀拵		江戸	18	AB
3	豹皮尻鞆	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	A
4	梨子地糸巻太刀拵		江戸	18	C
5	金紙采配 鉄刀木柄	徳川宗睦(尾張家9代)所用	江戸	18	A
6	白熊毛采配 桐紋散蒔絵柄	松平通温(尾張家3代綱誠19男)所用	江戸	18	BC
7	上り藤馬標	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	
8	青貝柄槍拵 五本		江戸	18-19	
9	梨子地葵紋蒔絵細太刀拵	徳川齊荘(尾張家12代)・ 慶勝(同家14代)所用	江戸	19	A
10	鳳凰蒔絵白銀造毛抜形太刀拵	徳川齊温(尾張家11代)・ 慶勝(同家14代)所用	江戸	天保7年 <1836>	BC
11	蠟色塗刀拵	徳川義礼(尾張家18代)所用	江戸	19	A
12	蠟色塗脇指拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	A
13	梨子地刀拵	徳川宗春(尾張家7代)所用	江戸	18	BC
14	梨子地脇指拵	徳川宗春(尾張家7代)所用	江戸	18	BC
15	◎ 太刀 銘 備前国長船住守家 名物 兵庫守家	丸毛長照・徳川家康所持	鎌倉	13	A
16	◎ 太刀 銘 備州長船住兼光	徳川吉宗(8代将軍)・徳川宗勝(尾張家8代) 所持	南北朝	14	BC
17	刀 銘 村正	徳川家康所持	室町	16	A
18	○ 刀 銘 以南蛮鉄於武州江戸越前康 継 慶長十九年八月吉日	徳川家康所持	江戸	慶長19年 <1614>	BC
19	脇指 銘 对馬守橘常光	柳生巖包(連也斎)所持	江戸	17	A
20	脇指 銘 虎徹興里作 寛文五年三月 吉日	徳川綱誠(尾張家3代)所持	江戸	寛文5年 <1665>	B
21	脇指 銘 伊藤肥後守秦光代 重胴二 以其齒 タウリ 柳生氏利延所持之	徳川吉通(尾張家4代)・柳生利延所持	江戸	17	C
22	短刀 銘 吉光	徳川綱吉(5代将軍)・徳川綱誠(尾張家3代) 所持	鎌倉	13	AB
23	短刀 無銘 吉光 名物 無銘藤四郎	生駒正俊・徳川秀忠(2代将軍)・ 徳川義直(尾張家初代)所持	鎌倉	13	C

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者など	時代	世紀	期間
【特集展示】 戦国武将の愛した名刀					
24	太刀 銘 光忠 守家造	加藤清正・徳川家康所持	鎌倉	13	7/3~ 9/4
25	刀 無銘 貞宗	片桐且元・徳川家康所持	鎌倉- 南北朝	14	7/3~ 9/4
26	◎ 脇指 無銘 貞宗 名物 物吉貞宗 附 蠟色塗合口拵	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所持	南北朝	14	7/3~ 9/4
【特集展示】 刀身に彫られた文字と絵					
27	脇指 銘 兼元		室町	16	9/5~ 9/24
28	刀 銘 平安城長吉	光雲院安己君(尾張家6代継友正室)・ 徳川慶勝(同家14代)所持	室町	15	9/5~ 9/24
29	刀 銘 相州住広次 明応九年八月日	徳川治行(尾張家9代嫡子)・ 齊荘(同家12代)所持	室町	15	9/5~ 9/24
30	鎧通 銘 平安城藤原長吉作		南北朝 -室町	14	9/5~ 9/24
31	刀 銘 資正作		室町	15	9/5~ 9/24
32	梨子地葵紋散蒔絵刀筒		江戸	18-19	7/3~ 9/4
33	村梨子地葵紋散蒔絵刀箱		江戸	19	7/3~ 9/4
34	紺地唐草文金襴刀袋(太刀 名物 大左文字 附属)		江戸	18	A
35	萌黄地切石文金襴刀袋(短刀 名物 戸川志津 附属)		江戸	17	A
36	花色地角繫文金襴刀袋		江戸	17	8/1~ 9/4
37	萌黄地切石文金襴刀袋(短刀 名物 奈良屋貞宗 附属)		江戸	17	8/1~ 9/4
38	刀 銘 備前国住長船彦左衛門尉祐 定 永正二年八月日	徳川家斉(11代将軍)・徳川斉朝(尾張家10 代)所持	室町	永正2年 <1505>	
39	蠟色塗刀拵 (No.38 刀 銘 備前国住長船彦左 衛門尉祐定 永正二年八月日 附属)	徳川斉朝(尾張家10代)所用	江戸	18	
40	獅子図三所物 銘 紋祐乘(後藤家初代) 光美(同家15代)(花押)		室町	15	
41	牛二疋連図小柄 銘 紋乗真(後藤家3代) 光孝(同家13代)(花押)		室町	16	
42	濡鴉図笄 無銘 頭乗(後藤家7代)		江戸	17	
43	海松に潮汲桶図目貫 無銘 宗乗(後藤家2代)		室町	15-16	
44	七宝透鉄罎		江戸	18-19	
45	丸橋図透鉄罎 銘 武州住恒忠		江戸	18-19	
46	葡萄図赤銅罎 銘 即乗(後藤家8代)作 光晃(同家16代)(花押)		江戸	17	
47	七宝折鶴赤銅罎 銘 越前住吟宇(花押)		江戸	19	
48	波に龍図縁・頭		江戸	17	
49	琴棋書画図縁・頭 銘 常直(花押)		江戸	19	
50	葵紋散太刀拵金具 一揃		江戸	18	
51	本阿弥光常折紙 元禄十年八月三日 (No.22短刀 銘 吉光 附属)		江戸	元禄10年 <1697>	A
52	本阿弥光勇折紙 享保十七年二月三日 (No.16太刀 銘 備州長船住兼光 附属)		江戸	享保17年 <1732>	BC
53	御腰物元帳 六冊の内		江戸	19	

以上